

新潟県 公民館月報



(昭和33年3月18日第三種郵便物認可)

昭和42年12月号 (通刊第178号)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市学校町一・県庁本館社会教育課分室内】
【電話・(新潟)23-5511 内線691】【振替新潟
4094】

発行人 会長 吉津 勝栄
編集人 事務局長 本田 清

昭和42年11月15日発行(毎月1回15日発行)
【定価1部20円 年共・年権240円】

冬の樹

こやみもしない

吹雪の日

しこかれ

うつつし

凍てつき

ふさがれた空の下

吹雪がいかにつけ

だけしくて

冬の樹は堪えている

雪雲が流れて

雲間から射す日が

一瞬

それをとらえたとき

全身は

金色に輝く

内部に

きざまれる年輪は

零下の季節を堪えた

意志の証明だ

(早稲田竜・写真本紙)

頂門の一針

国家理想をふまえて

I C B M

ひとりごと

おれの頭はいつも、自分のへやへ引き上げた。やがて物もいわずに学校に行つた。...

おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。だがその次に考えざるをえなかつた。...

九州 天草② 庵原 健
パールガルニエのありし日語る大江の丘暮れるるなり天...

「日本は経済的に滅びてくた。日本は経済的に滅びてくた。...

新刊紹介

政治シリーズ (全五集)
第1集 民主政治 80円、...

伊香保の女中さん

「広報かわにし」から

その日は、こゝろの合った仲間が九人、二台の車で志賀高原から白根山をぬけ、...

おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。だがその次に考えざるをえなかつた。...

ある有名な経済人はいつたそう。おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。...

ある有名な経済人はいつたそう。おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。...

おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。だがその次に考えざるをえなかつた。...

おれは単純な人間だから大いにシヨックを感じた。だがその次に考えざるをえなかつた。...

談話室



一つのもあい

星野元一

邂逅という言葉がある。人とのなのだが、はたしてどうなる
であらう、ものとのであらう、いわば。

一つ一つの決定的なあのこ
とである。そこで初めて人はおの
れの心の扉を開き、その道にそっ
と歩み出す。
私たちは学校といひ、講演講習
その他もろもろの機会を提供して
人々の邂逅をこなしているわけ

生きている人形劇

浅間 勝衛

先日テレビで糸魚川市の人形劇ながら劇の効果を語ったものだ。
グループが紹介されたがメンバー 箱入り娘をどうも生かす喜ぶ
の一人であるS子さんの笑顔が見た人形劇について私は驚かない訳
られなかったのが、私は淋しかにいかなかった。そのS子さん
「それまでは人ままでどうもの 嫁衣裳をつけて、自ら人生劇の主
も言えませんでした」と、S 役とたるために。
（糸魚川市公民館長）

このごろ思うこと

鷲尾 芳栄

独立館は望みませんが、すが、いざ運営面を考えると結果
すばらしい鉄筋2階建の観音堂協してこれでのいか種々反骨して
に併設して公民館ができれば、いさききょうこのごころですが、来年
既に今年の9月に移転しまして、事業の企画・実施・運営に専念で
場所もよい関係利用者も前に比べ、ききょうな体制にもついでいへき
て多きにのほりもごころで取りま 努力したいと感っています。

市町村視聴覚ライ
ブラリーにも補助

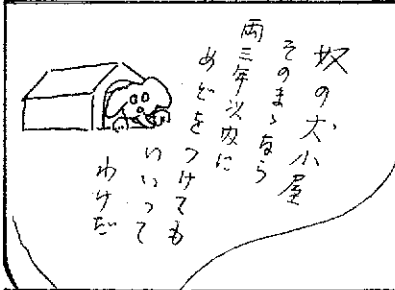
文部省、予算要求

文部省は四十三年度の視聴覚教
育普及施策の一つとして、全国市
町村視聴覚ライブラリーの教材フ
イルム購入費に対し、一本当たり
三分の一を補助することに、
大蔵省に十三万五千円を予算要求
している。
これは全国の視聴覚ライブラリー
八百九十五カ所のうち市町村関
係三百五十一カ所を対象に行なう
もので、全体の補助フィルム本数
は学校教育六十六万十五本、社会
教育三十四万四千本。
河省にこれまで、各県単位では
フィルム購入への補助はしていた
が、市町村まで手を広げるのはこ
れがはじめて。

(見附市郷巻公民館主事)

あまのじゃく

10. 養債 うつぎ、かす



第14回「わが家の家計簿」体験談募集

主 催 貯蓄増強中央委員会
後 援 N II K
都道府県貯蓄推進委員会

毎年おこなっている
一わが家の家計簿(体
験談募集を本年度は昭
和四十二年二月末の
切りでおこなうこと
になりました。
一人でも多くの方
に家計簿をつけていた
だき「あかるい豊かな
くら」を築く道標と
して役立てていただき
たい、という趣旨か
ら、みなさんの貴重な
体験談を募集するもの
です。

○内容 家計簿をつ
け始めた動機や記録
の苦心、家計簿を
つづける喜びや家族の
方々の協力の模様、家
計簿で発見したムリ
やムダな家計簿によっ
て予算生活をした結
果、消費内容に生じた変化
最近の物価高を家計簿記載に
より、うまく乗り切った体験
家計簿をもとにした、これが
らの明るい生活設計グループ
による家計簿記載の勉強会
など、家計簿記載に関す
るものをなんでも自由
に書いて下さい。

○原稿 1、本文は四百字詰原稿
用紙五枚(千字)以内
本文のほか、最近の記帳内
容がわかる簡単な表をそ
えて下さい。
2、原稿には、応募者の
住所、氏名(ふりがな
をつける)、職業、年齢、
同一家庭でくらす家族名
(応募者との続柄、年齢、
職業、就学状況など)およ
び家計簿記載年数を記
載して下さい。

○締め切り 昭和四十三年
二月二十九日
○入選 特選 三編 賞金各
二万円 秀作 七編 賞金各
二万円 佳作 四十編程度
賞金各五千円
入選者には賞金のほか記念
品を、応募者には貯蓄増強
中央委員会作製昭和四十四
年度「あかるい生活の家計
簿」をさしあげます。

○入選発表 昭和四十二年六
月中旬、本人に直接通知
○送り先 新潟県貯蓄推
進委員会 新潟市寄居町
日本銀行新潟支店内

記帳経験の短い方でも
予算生活に至らない方
でも、気軽に応募下
さい。

記帳経験の短い方でも
予算生活に至らない方
でも、気軽に応募下
さい。

全国表彰を受けて

磯部 富美子

阿波踊りの徳島市、人形浄瑠璃の香取市、さきさらされての仕事の徳島、なにか日本人としての郷土の。

慾を覚えるこの土地へ、思いもかけず全国公民館大会参加の出張！しかも、新潟県公民館の推せん、晴れの職員表彰の栄も受けるため、表彰はもったいないことでした。に……。何の得手もなし、ただ精一のさきパートナーと上司に付き添杯に婦人方の相手をし、戦って、われ山座をきたこと。美しい豊きた年輪が、それも上司と同僚の、かな閉閑の風物を眺めながら身の



(えびすくい)

民間芸能見聞記

綾子舞の巻 (その四)

近藤 忠造

綾子舞「海老すくひ川」をいじめる時、私ほひとく感嘆をおぼえた。かつて読んだことのある「新編家記(藤原明衡)に「暇り」とあるが、もはや古狂言に属し、中央からは早くに脱落し、わずかに狂言「名取川」によら、その所作の大様と類推するに過ぎない。狂言「海老すくひ川」は、松永貞徳の「流川」雑の部若きも腰のかかみぞすれ海老の子は生れつきより親に似る。

綾子舞「海老すくひ川」をいじめる時、私ほひとく感嘆をおぼえた。かつて読んだことのある「新編家記(藤原明衡)に「暇り」とあるが、もはや古狂言に属し、中央からは早くに脱落し、わずかに狂言「名取川」によら、その所作の大様と類推するに過ぎない。狂言「海老すくひ川」は、松永貞徳の「流川」雑の部若きも腰のかかみぞすれ海老の子は生れつきより親に似る。

「是は待、明日は客来を求むるでも「居禮」折」にしても空町時、こと何にも事がかんが、鎌倉時代に流行した小歌の味を素朴な若にハッタと事とかいてある。に、忠実に伝えていく。従って、はじまる。この綾子舞「海老すくひ川」は、極めて単純な筋の運びであるが、それだけに狂言小歌にはかくこののできない資料であり、しかもその所作を比較的忠実に伝えている。王に生きた資料といわざるを得ない。

綾子舞の概要を説明し、来たるが、私は、綾子舞にすっかり魅せられるところとなり、その調査研究も一数年に達した。吸めどもつきない味わいをもつ云龍、それは綾子舞と表裏である。(次回「角兵衛獅子」の巻)

あとがき

今回は四ページとしました。原稿集めの困難さが原因ではなく、主として予稿とのかねあからそうせざるをえなかったわけです。

きりぎりの財政をもちこたえ続ける県公連、たのみとする県からの事業補助も、数年来固打ちの状態。負担金も町村会の規制を受けて伸びなみどいのではこの先が思いやられます。せめて公債の増設の増加を期待したいところですが、内容がふるわなかつたのではそれも望めないという八方きりです。(本)

幸せを覚え、この大会は忘れ難い思い出にもなりました。鳴笛のうず潮の爽快さ、淡路島の岬に水通の命を燃やす神火の輝と共に天に立ち回っていたのが印象的で、も輝けと、そそり立つ全国学生運動員犠牲者慰霊碑のある青年の広場万葉にもうたわれたという徳島市内の眉山からの景観と、その柔らかな山のたたきまひも、徳島大会を印象づける材料でした。

市内「坂き通り」は、ワシントン椰子が高く茂り、蘇鉄と共に異國情緒を漂わす近代都市、人口二十万余というが広々と区画されているせいか、ゆとりとした街。九分科会場も市内各種産業、文化、金融関係の会館、センターが開設され、一、五〇〇名からの参加者を迎えた市民文化センターも活用。意見内容は、われわれは少くも

「是は待、明日は客来を求むるでも「居禮」折」にしても空町時、こと何にも事がかんが、鎌倉時代に流行した小歌の味を素朴な若にハッタと事とかいてある。に、忠実に伝えていく。従って、はじまる。この綾子舞「海老すくひ川」は、極めて単純な筋の運びであるが、それだけに狂言小歌にはかくこののできない資料であり、しかもその所作を比較的忠実に伝えている。王に生きた資料といわざるを得ない。

真皿の渡し

俵山 喜秋

少年の日の夢秘めし大川に今も流るす真皿の渡し、冬枯れの河原すすきの道はるか幾十年振りの真皿の渡し、門灯の今し灯れり船頭語所人形舞す真皿の渡し、ワイヤーを滑る鉄索からとらとらに消え行く真皿の渡し、愛染の御堂はるか夕光の冬野の果その道細く行く、やがて出に折かれ行かん菜畑の注々として枯葉高鳴る、川沿りの小さな村の小さき家雪道り来る暮もきびし、大倉の暮もきびしに本丸と二の丸割す映の空

(コスモス会員・小千谷公民館長)

「寄稿を待つ」

本文でも短文でも結構、打たれて気晴らしを兼ねて下さいます。採用分には薄謝を差し上げておきます。

編集部